2021 年 12 月　ver.1

研究課題名	食道癌 ESD 後の狭窄に対するバルーン拡張後ステロイド局所注射の検討
研究の意義・目的	食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）後に食道に狭窄を生じることがあります。ESD直後にステロイドの局所注射を行う事で狭窄を予防されていることが報告されていますが、それでも狭窄をきたす方がおられ、その場合には内視鏡的バルーン拡張術（EBD）が必要になります。複数回のバルーン拡張術でも狭窄解除できないことがあり、臨床的に問題となっています。食道癌術後の吻合部狭窄に対してEBD後直後にステロイドの局所注射を行う事で狭窄を解除するまでの期間を短くでき、EBDの回数を減らせることが報告されています。ESD後の食道狭窄に対してEBD後にステロイド局所注射を行う事で狭窄解除までの期間を短くでき、EBD回数を減らせるのであれば、患者さん、医療従事者、医療資源に対して有効であると考え、ESD後の食道狭窄に対してEBD後にステロイド局所注射を行う事の有用性について明らかにすることを目的としました。
研究を行う期間	「研究機関の長の研究実施許可日」～2024年12月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2008 年から 2020 年に大阪市立大学医学部附属病院の消化器内科で、食道上皮性腫瘍に対して ESD を施行した方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、検査日、治療日、既往歴、検査データ、内視鏡画像、内視鏡所見、CT 画像など】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器内科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科　消化器内科学　藤原靖弘
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科　消化器内科学 （担当者氏名）永見　康明 電話番号：06-6645-2316